

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372200935		
法人名	有限会社敬仁会		
事業所名	グループホーム万富の郷		
所在地	岡山県岡山市東区瀬戸町万富1871-1		
自己評価作成日	平成30年2月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3372200935-008&amp;PrefCd=33&amp;Versi">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3372200935-008&amp;PrefCd=33&amp;Versi</a>
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成30年3月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

9人という大きな家族との生活の中体調の変化を見出すことがとても難しいものです。毎朝9人そろって朝食が摂れるというのは大きな喜びと安心、そして皆様の笑顔に救われます。その笑顔のために少しでも長くこの施設で、生活して頂ける様私たちスタッフは信用のおける場所づくりを目指し、個人個人に合わせた生活スタイルが送れるよう頑張ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近年にない飛び切りの寒さが続いて、ようやく春の兆しが見えた今日は3月3日の雛祭りの日。恒例の朝のミーティングと今日のご馳走の巻き寿司の準備がスタンバイした頃に私達の訪問が始まった。朝と夕方のこの申し送り及びミニミーティングは、このホームの柱となっている。話し合いは「今日のケアプランの共有」ともなっている。そして私は、職員の顔ぶれが殆んど変わっていない事に安堵したり、リビングの皆さんの中に新しい顔を見付けたりしている。会議が終わったと思うと、その新顔の一人が巻き寿司の見事な手さばきを見せてくれている。「新しく入所された方で色々な家事をして下さる」と職員が教えてくれた。この方の入所でホームの空気が一変しているらしい。色々と問題を抱えた利用者も仲間になったり、重度化が見られる人も居るが、このホームでは協力的な家族や地域支援によって益々素晴らしいグループホームに成長し続けている事をしっかりと確認した一日となった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し地域との交流を図り調和して生活している。	昨年度の色々な体験から職員は「一期一会」の思いを噛み締めている。「今朝の今、皆で朝食を頂ける喜びを有り難く思い、笑顔になろう」といった切実な願いを皆で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の生協への加入、地域の移動商店の利用、畑の作物、花の差し入れがある。文化祭への参加、子供会との交流がある。	人口が減少傾向の地域の共通課題となりつつある問題に対して、介護施設と地域住民は今後協働して暮らし続けていく事になるだろう。例えば相互の情報交換や、買物等の助け合いを交えた交流がますます重要な状況になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の会合で介護相談にのったり、運営推進会議で認知症の相談の呼びかけをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告前回の検討事項への経過報告をし、家族を含め参加者の意見をもらうこと、出来る限り入居者も参加して交流を図っている。記録の改善と話録(S)のコーナーを入れる。	定期的に町内会長・民生委員・地域包括・利用者本人・家族等が参加して、個々の報告や意見交換・情報提供が綿密にされている。記録も丁寧で、ホームでの暮らしぶりが一目瞭然と分かる。本人も発言しているのが良い。	隣接のG. H「万富の家」と合同で確実な運営推進会議が継続しており、ホームの運営に活かされていてとても良い。その場で話し合ったり、そこで出た意見のメモが残されておれば、さらに良い。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	民生委員、包括支援センター担当者に現場の実情を知っていただき協力体制を図っている。情報の提供もいただいている。	市の事業所担当者には、分からない事があればその都度連絡して指導をしてもらっている。例えば生活保護の申請の手続きの支援やホームへの受入れ等に関する事等、頻繁に相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の見守り方法を徹底し、一人一人のその日の気分や状態を把握し自由で安全な生活を支援している。	このホームでは、ケアプランに基づいたケアを踏襲しながら、毎日2回の申し送りとミニミーティングをする事によって、難しい対応が必要な人にも統一したケアが出来ている。もちろん現在身体拘束の必要は無い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切なケアを発見したら対応方法について話し合い、決してしないと確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度利用入居者があり随時勉強し入居者の支援に結び付けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時事業所の方針をしっかりと理解してもらい退去を含めた対応可能な範囲について時間をとって丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「万富の郷便り」で毎月連絡欄を設けざっくりとに状態を伝え、面会時何でも言える雰囲気づくりに留意している。一方的な通達にならないよう心掛けている。	このホームの家族は日常的な訪問が多だけでなく、さらに一歩踏み込んだ関わりをしている人が多い。こういったつながりを支援しているホームは数少ないが、この姿こそ本来のグループホームのあるべき姿と思う。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りミーティング、月一度の職員会議を開き意見交換をしている。出来ることはその日より実行している。	心身に難しい問題を抱えている利用者が多い状況であるのに良いケアが出来ている要因を考えてみると職員間のお互いの信頼度・意思疎通が十分出来る業務の在り方・職員同士仲良く異動が少ない事等、総合的に良い関係が続いていると思われる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も勤務に入り入居者と過ごしたり、個別に職員の業務や悩み事の把握に努めている。健康診断で健康状態の把握にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加の呼びかけ、ケアマネ、介護福祉士などの資格習得に努めている。研修内容の報告により知識を高めるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所へ訪問したり、施設状況の連絡をとったりして情報交換や意見をケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談で本人の置かれている状況を理解し、本人の思いや不安を受け止め、安心してもらえるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事や不安なこと、また求められていることを理解し、どのような対応ができるか事前に話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所開始前に管理者ケアマネージャーが本人、家族に会い信頼関係が持てるよう工夫している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段から入居者に教えてもらう場面が多く持てるよう声掛けし、お互いが協働しながら穏やかな生活ができるよう配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日ごろの状態をこまめに伝え相談し、入居者を一緒に支えるために家族と同じような思いで支援していることを伝える。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に住む馴染みの友達が訪ねてきたり、友人たちが集まる会合に出かけたり継続的な交流ができるよう働きかけている。	家族やキーパーソンとなっている親族が、利用者本人への思いを強く持って関わっている例が多い為、馴染みの人や場との関係性が他ホームと比較して多く感じられる理由だと思う。ある意味では、理想的な関係が継続していると言えるだろう。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の食事の時は職員も一緒に多くの会話をもち利用者同士が円滑になるよう席替えなど行って働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても行事に招待したり差し入れが有ったり交流はしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中での会話より本人の意向を見出している。気づきノートをテーブルに置き新しい発見や言葉をすぐに記録してケアプランに反映している。家族の訪問時会話内容もたずねたりしている。	ケアプランの本人意向欄に「ええよ。やっていける。大丈夫じゃろ。ちょっと暇」と記述の下に「ホームの生活は出来ると思う。大丈夫。何をしようか分からんから少し退屈かな?」と翻訳が添えてあった。職員は一人ひとりの思いをしっかり受け止めようとよく努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネージャーの力を借りて本人や家族の聞き取り調査で生活歴、ライフスタイルや価値観を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを把握し本人への働きかけを含め確認し記録するようにしている。日々寄り添って日記付けを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族に日常生活の中での思いや意見を聞き職員全員で意見交換、カンファレンスを行っている。本人の状態を毎日新鮮な目で見て確認して、思いに沿ったケアプランを立てている。	ケアプランにもつなげるためにリビングの机の上に「気付きノート」を置いて利用者の言葉をメモする試みを続けてきた。ミニノートの宝物のような記録も増え、日々の申し送りやミニカウンセリングが、利用者の“今”を支えている。	本人の思いや語ってくれる歴史がメモされた「気付きノート」は、置き場所等も指摘されているが、今後は非職員で話し合っただけで忙しい業務の中でも可能な方法を見つけ、継続して欲しい。ケアプランだけでなく、色々な面で必ず役に立つと思う。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録、申し送りノートの作成で毎日の申し送りですべての職員が確認できるようにして計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じ通院、送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設運営会議に包括支援センターの職員が参加することで情報交換、協力関係が強化された。町内会長、民生委員とも協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の納得するかかりつけ医での受診、往診としている。家族への情報提供も怠らないようにしている。通院の仕方も家族、本人の納得いき方法で行っている。	このホームの家族は本人やホームとの結びつきを重視してくれている人が多く、受診付き添いも特別な場合は別として家族が多く対応している。認知症や精神的疾患の場合はホームドクターを通じてそれぞれの専門医につないでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し健康管理、状態の変化に応じた支援を行えるようにしている。いない時は介護職員の記録を基に確実な連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供書を作成し施設での対応可能な段階でなるべく早く退院できるよう医療機関と連携をとり積極的な支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を踏まえ施設が対応できる支援方法、方針を話し合い取り組んでいる。ターミナルケアについても随時意思を確認しながら医師と連携をとり対応している。	ホームを開設して約14年ほどの期間に、約10人程の看取りをした。その間、いよいよ最期の時と覚悟した人が蘇える等、職員も色々と経験を積み重ねてきた。夜勤者も、今は「お別れに私を選んでくれたんだ！」と思えるまでに成長した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生マニュアルを作成し、救急車が到着するまえのすべきことや夜間の連絡方法等色々なケースを想定しながら話し合いを繰り返している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し年二回の訓練を入所者とともにやっている。地域の協力体制も運営推進会議で呼びかけている。予定していたコミュニティ集合ができていないので計画しなおしていきたい。	定期的な避難訓練は確実に実施し、また日頃から近隣の方々に何か災害があった時は応援して頂けるようお願いしている。以前、町内会長から「コミュニティハウスが安全」とアドバイスがあったので、次回には計画を実行する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切に考えて目立たず、さりげなく自己決定しやすい言葉かけに配慮している。	このホームは他と比較して親類その他馴染みの人とのやり取りが多い。今朝もヒヤリングの時、知り合いらしい人から〇〇さんと話したいという電話があったが、職員は慎重に対応していた。一人ひとりの尊重とプライバシー重視は、このホームのあらゆる日常生活の中で根を下ろしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者と過ごす時間を通して希望、関心、嗜好を見極めそれを基に本人が選びやすい場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが時間を区切った過ごし方にせず、出来るだけ体調に配慮し個別性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地元理容師に本人希望の髪型にしてもらったり、こだわっているスタイルを把握しその人らしさを保てるようにしている。好みの服の色なども配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を一日の大切な活動の場の一つとし入所者と一緒に食材の買い出し、メニュー作り、調理、盛り付け、盆拭き等を行っている。	新しく入居した〇〇さんが巻き寿司を作ったり、職員と買い出しに行く等、一気にホームの雰囲気に変化が見られるようになった。食事も会話が弾み、それに加えて今日は雛祭りのご馳走なので『盛り上がった、桃の花も春めいた空気をもたらしてくれていた。』	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各々の食事量のチェックと月毎の体重測定を怠らず本人に合った食事の提供を行っている。介助の方法や食器の工夫等食が進むよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は見守り、できない方も一人ひとりの力に応じた歯磨きの手伝いをしている。訪問歯科の利用も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し尿意のない方も時間を見計らってトイレに誘導している。またオシメの種類や当て方も工夫し取り組んでいる。	排泄面では殆んど自立していて布パンツの人が多いが、常時オシメの人も居る。対応が一人ひとり異なり、その時によっても違いがあるので、日々申し送り時に情報を共有し細かい点についてまでディスカッションをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材や食事のメニューを工夫し水分補給の徹底を行い身体を動かすことの大切さも伝えている。テレビ体操も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を取り入れ入浴の順番など配慮し体調に応じて安全でスムーズな入浴を工夫している。	一日置きに大半の人は一人介助で気持ち良く入浴してもらっている。湯船に入れない人は清拭する等、その人の状況に合わせて柔軟に対応してもらっている。事情があって家族に「お風呂の時に来て下さい」と協力してもらっている例もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所者一人一人の生活リズムを把握し整え日中の活動を促し場合によっては家族・医師と相談し薬の調整に努めている。また午睡も取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や容量の変更など本人の状態の変化を観察し医師への連携を図れるようにしている。薬情も個別のファイルでいつでも見れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野での力を発揮してもらえるようお願いしてできそうな仕事をたのみ感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	他施設の運動会に参加したり近くの喫茶店に家族と一緒に外食に出かけたりできた。また本人、家族の希望に沿っての外出も支援している。	季節毎の外出や外食を伴う外出・家族会としての外出・買い物その他、ホームが支援しているもののほかに、家族がそれぞれの方法で、よく連れ出してくれている。外出が思うように出来ない状況も今後考えられるので、今の内に楽しみたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人家族と相談し金銭管理に取り組み用途に関しての報告も必要に応じて行っている。安心のため常に身にまわっている人もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	見舞いの絵手紙が届いたり、誕生日や敬老の日のプレゼントも届いたりする。またお礼の電話の援助もしている。居室でゆっくり携帯電話で姉への近況報告をしている入所者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールテーブルには季節の花や動物の置物を置き、入所者に季節感や生活感を大切にしたフロアーづくりに努め家庭的な雰囲気を感じてもらえるようにしている。	リビングの中央に長い間でんと構えていた大きなホールテーブルの形が、今年はL字型に変化していたので、何か利用者に変化があったのだろうと推察していた。利用者の入れ代わりや利用者同士の相性によって共用空間を上手く活用している。相変わらず季節を感じさせる心地良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、居間はすべてが視野に入り易いためソファコーナーでくつろげるように配慮している。またパーティーの有効活用に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の意向や状態に合わせて、畳かベッドを選んでもらい、その人らしく居心地の良い居室づくりに取り組んでいる。家具やタンス写真や思い出の品々も持ち込まれている。	以前から利用者の殆んどは日中はリビングで過ごす事が多いので、居室は夜間の状況を重視して個々の状態に合わせて、畳をベッドに変更した人も居る。各部屋には立派な絵や手作りのカレンダーやクリスマスカード等、思い出の品が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	心身、機能の変化に考慮し入所者の状態に応じた環境の整備に努めている。		